

特集 ごみを減らすためにできること

本町のごみ排出量は県内でワースト8位。
ごみの処理にかかる経費は、10年前と比較すると
約3千万円増加しています。
年々増え続けるごみの排出量。
ごみを減らすためのキーワードは「3R」。

福島県はごみ排出量 ワースト上位の常連

6月に環境省が発表した令和2年度ごみ排出量等の調査結果によると、福島県民1人1日当たりのごみ排出量は1033㌔で、全国平均より132㌔多い結果となりました。都道府県別では、令和元年度と同様、富山県に次いで全国ワースト2位となり、ここ数年はワーストランキングの常連という結果になっています。

本町のごみ排出量 県平均を上回る

令和2年度の本町の1人1日当たりのごみ排出量は1172㌔で、県平均を139㌔上回っており、県内では8番目(令和元年度は5番目)に多いという結果になりました。市町村別の

リサイクル率では17・0%(令和元年度は15・0%)で10番目、県内においては進んでいるほうです。しかしながら、平成28年度のリサイクル率18・2%を下回っており、町のごみ処理計画の目標値(下表)である令和9年度1人1日当たりのごみ排出量846㌔、ごみのリサイクル率24・2%には遠く及ばない数値となっています。

「燃やせるごみ」の中に 再生可能な資源物が

町で収集しているごみのほとんどは会津若松市にある会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センター(以下、環境センター)に搬入され、処理されています。環境センターには、広域組合を組織する会津地方の10市町村からごみが搬入されています。このうち、「燃やせるごみ」として搬入されたごみの組

リサイクルで ごみ処理経費削減へ

本町におけるごみ処理経費の推移は左のグラフのとおりです。収集運搬や焼却など、令和3年度のごみ処理にかかった費用は合計約1億8千万円で、町民1人当たりすると1年間に約1万4千円の費用がかかっていることとなります。ごみ処理にかかる経費は増加傾向にあり、平成24年度よりも約3千万円増加しています。これらの費用は全て皆さんの税金で賄われています。

もう一度ごみリサイクル カレンダーの確認を

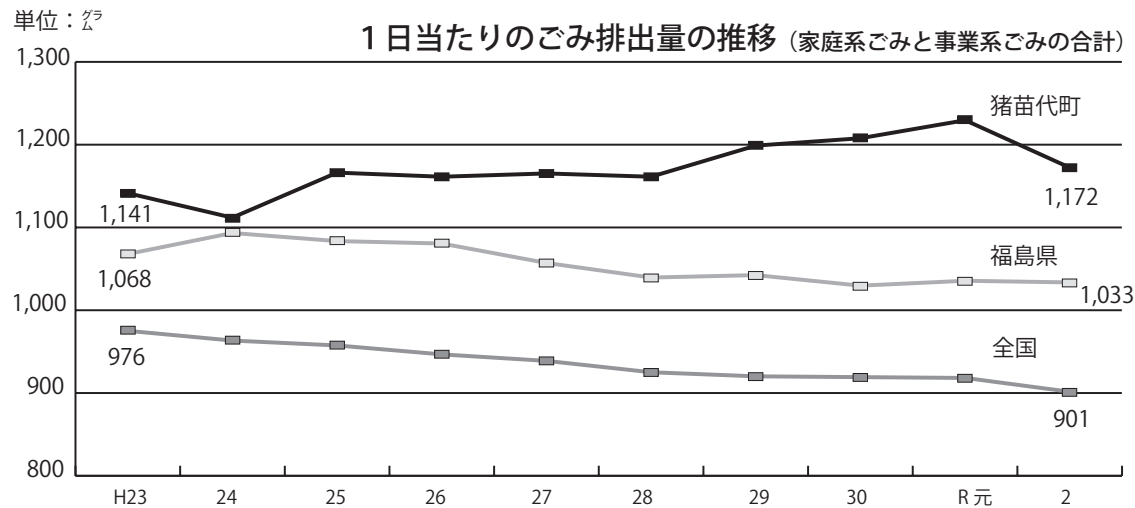
本年度から新たに商品プラスチック・小型の電化製品類・金属くず等の分別回収を実施しています。また、イベント回収や高齢者(70歳以上)世帯で、粗大ごみの日に持ち込めない人は、ご自宅まで引き取りに伺うなど新たな取り組みも実施しています。

もう一度、ご家庭に配布している「ごみリサイクルカレンダー」を確認していただき、ごみの出し方・分別にご協力をお願いします。

小型家電と古着の イベント回収

5月28日に、町役場前で小型家電と古着のドライブスルー方式による回収を行いました。本町では昨年度も行っており、2回目の実施となりました。回収された小型家電は1612誌で、破碎・選別を経て、鉄・アルミ・金・銀・銅・レアメタルなどにリサイクルされます。古着は1990誌で、東南アジアやアフリカなどで再利用されます。次回は10月1日(土)に実施します。

1日当たりのごみ排出量の推移 (家庭系ごみと事業系ごみの合計)



※環境省一般廃棄物処理事業実態調査結果より

町のごみ減量化の目標 (廃棄物処理法基本方針により 12%削減)

	基準年 (H24～H28)		目標年 (R9)	
ごみ総量目標値	5,970.41 ^ト	➡	3,959.00 ^ト	生ごみ・集団資源回収を除く。 推計人口 12,820人
住民1人目標値	961.18 [㌔]		846.00 [㌔]	

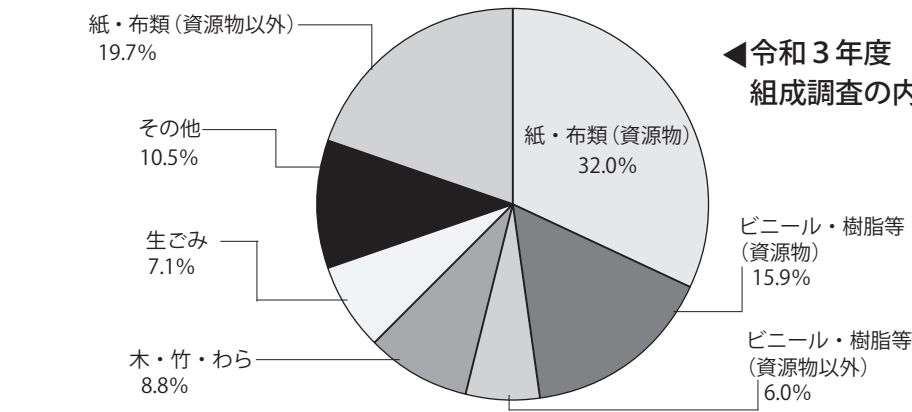
町のごみリサイクルの目標 (廃棄物処理法基本方針により 6%増加)

	基準年 (H24～H28)		目標年 (R9)	
資源回収量	1,105.00 ^ト	➡	1,227.00 ^ト	家庭系・事業系資源ごみ、生ごみ、 集団資源回収
リサイクル率	18.20%		24.20%	

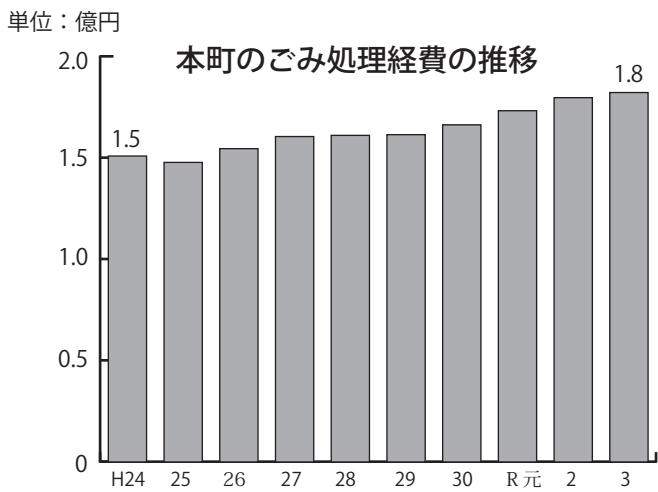
※町一般廃棄物(ごみ)処理基本計画より

令和3年度 組成調査の内訳

成調査を行った結果、紙・布類が51・7%で1番多く、次いでビニール・樹脂等が21・9%、木・竹・わらが8・8%となっております。そのほか生ごみが7・1%で、「燃やせるごみ」の中に再生可能な資源物が約48%も含まれていることが判明しました。



本町のごみ処理経費の推移



▼問い合わせ先
町民生活課 環境係
☎(62) 2114

- 1 Reduce (リデュース)
できるだけ無駄なごみを少なくすること
- 2 Reuse (リユース)
ものを繰り返し長く大切に使うこと
- 3 Recycle (リサイクル)
使い終わったものを資源として再生利用すること

ごみを減らすための行動
それが「3R」

今までごみとして捨ててしまっていたものを、これからは大切な資源として繰り返し使っていくことが大切です。「使い捨て型社会」から「循環型社会」に変えなければなりません。

町では、ごみの分け方・出し方の理解を深めるため、3Rの実践について講座を開催しています。ぜひこの機会に講座を受講し、3Rに取り組みましょう。